

## 見えない子供たちの現実

# 家庭教師の目

③



## 子育て—父親がやるべきこと

子育てを母親に任せきりにしている父親が、まだ多いと思います。母親を助けて育児参加をしるなどと言うつもりは毛頭ありませんが、子どもたちが教育を受け成長するために、それを支える父親の力が必要な時があることを認識してもらいたいものです。

私のところでも、素行が悪かったり、自閉症気味だったりする子どもの家庭教師を頼まれることがあるのですが、そういった子どもたちに共通しているのが、両親の夫婦関係です。夫婦仲が悪く、母親が平気で父親の悪口を言うような家庭の子どもは、勉強以前の問題に苦しんでいるわけです。そうになると、おのずと家族の会話も少なくなってしまう。これでは勉強どころではありません。

そうならないために、父親に何ができるのか。大切なことは、子どもと正面から向き合うことです。たまには親子二人で釣りや山登りに出掛けて、話を聞いてあげて下さい。そして、子どもが興味を持っていることや悩んでいることを正面から受け止め、心から誉めたり、論じたりしてあげて下さい。それが、子育ての中で父親がやるべきことです。

父親は子どもにとって雲の上の存在なんです。だからこそ、その存在感が、何にも増して子どもたちの支えになり、励みになります。

そうした親子関係が成り立っていない状態では、勉強の何をあれこれ心配しても始まりません。親が思い立って子供に了解させ、

通信教育などの教材を与える家庭が多いですが、こうしたものは三日坊主が関の山です。考えても見てください、この場合、子どもたちは学校の勉強と別に、もう一つ勉強しなくてはならなくなる。その上、分からないところは、結局のところ、解説を見ても分からないんです。そんな勉強を自分だったら続けられますか？ また、自分が子供のころ、そんなにがんばることが出来たでしょうか？

それなら、子どもたちの勉強をどう導いてあげればいいのか。大切なのは、興味を持たせてあげることです。勉強しないといけないとは思っていても、どうしたらいいのかわからないのが、多くの子どもたちの現実です。

例えば、高校生になると、sin・cos・tanという三角関数を習います。皆さんも勉強した記憶があるでしょう。しかし、これを型通りに教わって身に付けることができる人なんて、わずかだと思います。

でも、こう教わったら、どうでしょう。窓から見える高い木。その高さを実際に測ることは出来ません。ところが、日光が当たる角度と、それによって出来る影の長

さを図れば、木の高さが割り出せますよと。

こうやって身近なものに例えながら子供たちに働きかければ、子供たちの学習意欲が変わってきます。そして学校には、このように子どもたちに勉強への興味を抱かせてくれる先生が少ないのです。

もちろん、だから親がそうした学習指導をしないとイケないというわけではありません。現実的には塾にやるなり、家庭教師をつけることになるでしょうが、こうした子どもたちの現実を思いやり、勉強のみならず、家族のこと、世の中のこと、将来のことなどに興味を湧かせてあげられるような父子の触れ合いを大切にして欲しいのです。



### 文・中村信二

1963年福岡県生まれ。家庭教師派遣で福岡老舗の株式会社日本学術講師会、高校入試問題集のベストセラー「虎の巻」出版の株式会社ガクジュツの代表取締役社長。福岡青年会議所で教育問題調査会副委員長や社会参画推進委員会委員長などを歴任する傍ら、TV、ラジオにも出演。現在、貧しい子供たちのための「無料塾」開設を構想している。家庭教師の問い合わせはフリーダイヤル0120-41-7337へ